

令和 6 年度 稲沢市地域自立支援協議会 第 1 回 権利擁護推進部会 議事要旨

【日 時】令和 6 年 6 月 11 日（火）午後 2 時～午後 3 時 20 分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎 1 階 第 8 会議室

【出席者】権利擁護推進部会委員 5 名 事務局 6 名

【欠席者】権利擁護推進部会委員 1 名

【議 事】

あいさつ（部会長）

1 協議事項

（1）障害者虐待事案の対応検証

1）虐待ケースの報告

虐待ケースの対応状況について、市から報告

部会長 愛知県の資料に基づくと、稲沢市の統計はどうか。

事務局 昨年度の状況でいうと、養護者虐待 8 件、施設従事者虐待 8 件、使用者虐待 0 件。

障害種別については知的障害、虐待累計については心理的虐待が最も多かった。認定率については、愛知県が 30 数パーセントであるのに対し、稲沢市は 40 数パーセントであった。

（2）障害者差別解消支援地域協議会としての取り組み

・前回会議（2 月 7 日）について

・事業者向け説明会（6 月 5 日）について

1）地域における理解促進等

委員 A 合理的配慮の義務化はされているが、巡回相談で市内の学校を訪問していても実際は難しい。教員から「特別扱いはできません」という残念なご意見をいただくこともあり、周知が難しい。以前、サポートブックの会議で動画配信について聞いたことがあるが、そういう機会を利用できたらいい。

部会長 稲沢市役所ホームページ上に紹介はないか。

事務局 稲沢市役所のホームページ上には障害者差別解消法の紹介と併せて、合理的配慮についても簡単に載せている。関連情報として内閣府のホームページについても載せている。

委員 A 気になった人がアクセスしてというと、気になった人にしか広がっていかないので、広報など多くの人が目にするもの、普段気にしていない人の目に入るような機会があるといい。

部会長 広報には載せられないか。

事務局 現状、事業のお知らせは載せられるが、一般的な制度周知としては、なかなか載せられない状況である。

稲沢市社会福祉協議会の広報誌には年 1 回は掲載したいと考えている。

- 委員 B 保護者のかたに知ってもらうため、事業所の便りには載せた。私が早期療育を始めた頃には、障害のあるお子さんを授かると、2人目、3人目を諦めるかたが多かったが、最近では「下の子が生まれました」と報告される母があり、社会の見方が少しずつ変わってきたと感じる。
- 委員 C 障害のあるお子さんを抱えている保護者の負担について、私も耳にしたことがある。差別については、まだ周知は足りない。正直なところ、私自身もこの立場になって初めて、目を向けるようになった。一般的に生活していると何も知らずに終わってしまうので、やはり周知は大事であるということと、こういった啓発活動を通して、家庭への支援ができればいいと思う。
- 委員 D 特別支援学級の子が増えていると聞いているが、周りの子が自然に接することができる雰囲気がつくれているのか。
- 部会長 前会議で出た町内会役員の話は、主旨からすれば共生社会を実現するためであるから、役員を断るために障害を理由にするのは違うのではないかと思う。他のケースについてはまだ何もないか。
- 事務局 稲沢市においてはここ数年、差別を受けたとか、合理的配慮の不提供があったなどの報告はない。しかしながら、全市民が制度等を十分知った上で、差別を受けていないという理解のもとに通報がないのか、知らず知らずのうちに差別を受けていて、こういうものだと言っているのかは分からない。
- なお、前会議で意見として出た稲沢商工会議所協力のもと、合理的配慮の提供に関するチラシを会員に配布することはできると思う。
- 委員 B 板書が苦手な子どもが地域の学校にいて、会話もでき、内容も理解できるが、たまたま板書が苦手というだけで自尊心が傷ついている子がいる。タブレットをこれだけ普及させているなら、障害特性に応じて、黒板の写真を撮っても良い、とすれば良い。合理的配慮の提供にあたるのではないか。
- 事務局 意見があった旨、学校教育課に報告する。
- 部会長 障害のあるかたと接する機会が多いところには特に、チラシを配るなどしてはどうか。
- 委員 C 今年度から、市内保育園でインクルーシブ保育が始まったことから、色々な研修を行っていると思われるが、この部分はどこまでやっているのか。学校に配るのであれば保育園に配るのも良いと思う。
- 事務局 インクルーシブ保育の説明会に参加したが、その中に、この法律の部分はなかったと思われるため、周知の対象として考えたい。自立支援協議会委員には学校教育課、保育課職員もいるため、相談したい。

## 2) ケーススタディについて

- ・進め方について
- ・事例紹介

内閣府のケーススタディ集や、書籍等から、架空事例等を用いて、部会で紹介していく進め方について事務局から提案（異議なし）

### （3）性に関する取り組み

#### ・講座事業の検証等

部会長 現状、第4期の体験談については未定か。

事務局 委員Bのお知り合いが候補としてあがっていたが、体調がすぐれないとのことで、どうしようかと悩んでいるところ。

委員B 日によって体調の変化があり、講師として調整することが難しい状況のため、インタビュー映像を残す方法を検討している。

ちなみに、第1期は定員オーバーになると抽選なのか。事業所としての参加を検討しているが、いかがか。

事務局 広い会場を確保しており、事業所単位を1組と考えるため、参加していただいても問題ない。